

オルガノン要約 § 282～291

§ 282 ホメオパシー的悪化(本来の症状が著しく現れること)が1回目から発生した場合は、投与量が多すぎることを示している。

慢性病の治療の基本：

A) 原則＝極微量から始めて、少しずつポータンシーを上げていくこと。

B) しかし皮膚で勢いづいた三大マヤズムの治療は例外である。

専用のレメディをどんどん高ポータンシー化し、毎日、時には一日に何回も投与（大量投与）しなければならないし、表面的な症状で確認できるから、痛手は蒙らない。

病気とは：

A) 根源的生命力へのダイナミックな攻撃のことであり、物質的なものではありません。つまり物質的に除去することはできない。局所的症状を除去すると患者を生涯際限なく重疾患にする。

B) 外的な徴候として示された内的な悪性マヤズムの本体であり、これを消し去ることができるのはレメディだけである。

ただし、尖形コンジロームについては、完治させるためには、内的だけでなく外用としてレメディを同時に用いる必要があることもある。

§ 283 真の治療家は、最もよく選び抜いたレメディを極めて微量で処方する。

なぜならレメディを間違えてしまったとしても害が少なく済むから。その害は次に処方された正しいレメディによって、速やかに消えるだろう。

§ 284 服用の際、最も普通に刺激を受けるのは、舌、口、胃である。

レメディの匂いを嗅ぐか吸入するなら液体の状態が良く、鼻、呼吸器官が刺激を受ける。

皮膚はレメディ溶液を吸収するのに適している。内服と同時なら特にそうである。

(注1) 母乳は非常に医薬的效果が高いが、ソーラは母乳によって与えられる。生まれたばかりの乳児はより病を根絶しやすい。これはソーラに対するレメディ (Sulph.) を使う。最初の妊娠時にソーラに対するレメディで治療する必要があり、そうすれば妊婦のソーラから胎児を分離させることができ、はるかに丈夫で元気な子供が生まれる。

§ 285 レメディが効果的な場合、その水溶液を外用すると治癒を促進する。しかし痛み、痙攣発作がある部位は避けること。

(注) 鉱泉はまれには良い治癒をもたらすが、それは偶然であり、たいていは悪化する。

§ 286 レメディは以下の方法で摂取する。

A) 口から内服する。

B) 皮膚にすりこむ。

C) 匂いをかぐ。

電気などのダイナミックなエネルギーも根源的生命力に作用するが、不可解な点も多い。

§ 287 強力な磁石は治療に役立つ。磨いた亜鉛の板は激しい作用を解毒するのに役に立つ。

§ 288 メスメリズム（動物磁気）は神からの贈り物であり、他の治療法とは区別される。これは治療家の正常な状態で患者の VF の乱れを消す。この治療家は人間の生命エネルギーを完全に開花させている人である。この磁気を帯びた人物が思いやりに満ちた熱狂にふけることができるなら、奇跡のようなことも起こる。

§ 289 メスメリズムについて。

§ 290 活力と思いやりのあるひとの按摩マッサージも同類である。神経質な患者には、やりすぎてはならない。

§ 291 何も混ざっていない風呂（ぬるま湯～冷水）は急性病でも慢性病の回復期に対してもホメオパシーに対する補助的な手段となりうる。これは症状を緩和させることができるだけで、医薬的なものではない。

風呂による一時的な緩和は、肉体に作用するだけ（ダイナミックではない）なので、ダイナミックな医薬的なもののように二次作用が起きることはない。